



4日(木)、三浦市学校教育研究会の小学校社会科部会の皆さんが、城ヶ島の戦争遺跡を見学しました。

見学の前に、城ヶ島県立公園の園長さんと講師の田中健介さんから大まかな説明を受けました。

最初に、城ヶ島県立公園の駐車場の中に残っている



砲台の跡(右の写真)を見学しました。駐車場の中にあるのですが、普段歩いても、気が付いていなかったです。城ヶ島には砲台が2か所あり、それぞれに大砲が2門あったそうです。駐車スペースを広くするために壊そうとしたけれど、頑丈で無理だったので、そのまま残したらしいです。おかげで、われわれが見ることができているんですね。砲弾は、24.6km飛ぶそうで、房総半島の野島崎まで届くそうです。



続いて、地下壕へは行っていきました。よく見ると、入口は、迷彩色に塗られており、空から発見されにくくしていたようです。弾薬庫が3つあり、通路の長さは、直線で50m以上、当時は、レールが敷いてあり、トロッコが通っていたそうです。弾薬を砲台まであげるために、リフトもあったそうです。

このような地下壕は、城ヶ島以外にも、岩浦(いわぶ)、高貫(当時はこういう表記だったらしい)、浜諸磯、黒崎に残っているそうです。そのほか、市内には、トーチカ、特殊舟艇根拠地なども残っていて、海の守りに占める三浦の重要性がよくわかります。

江戸時代にも海防陣屋があった三浦、やはり海とは切っても切れない関係がありますね。



また、このたび、油壺湾にある、国土交通省国土地理院の油壺験潮場の旧建屋が「土木学会選奨土木遺産」に選定されたそうです。

明治27年につくられたもので、日本の標高を決める水準原点を決めるために重要な役割を担っていたものです。現在は、新建屋へ機能移設しているそうです。

このような施設がある三浦と海つながりはやはり強いですね。



旭小学校の1年生が、図画工作の時間に、海の生き物のちぎり絵に挑戦しました。色紙を小さくちぎって貼り合わせていったものです。「マンボウ」「メカジキ」「タカアシガニ」等、様々な生き物を完成しました。みんなの作品を掲示している様子は、まるでミニ水族館のようです。



3月1日より先生方のPC上に、「海洋教育カリキュラム一覧」というリンクアイコンが存在しています。海洋教育カリキュラムを投稿、閲覧可能なイントラネットサイトです。すでに、22本の実践例がアップされています。皆さんの実践を共有できるように、積極的に投稿、閲覧してください。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで